

予 算

一般会計と特別・企業会計合わせて総額309億911万円

豊かな自然との共生、活力ある人々、
にぎやかなまちづくりを

一般会計.....	171億6,400万円
特別会計	
国民健康保険...	45億9,530万円
老人保健.....	37億6,040万円
介護保険.....	23億8,880万円
農業集落排水事業...	4億2,160万円
特定環境保全公共下水道事業...	5億3,270万円
流域関連公共下水道事業.....	5億5,150万円
水道事業.....	12億6,515万円
白帆荘運営事業.....	2億2,966万円

平成18年度予算が3月の定例議会で可決されました。

平成18年度の予算編成は、国の地方財政計画の規模の抑制に努め、国と地方の信頼関係を維持しながら「三位一体の改革」を着実に推進するため、安定的な財政運営に必要な地方交付税などの一般財源を確保することを基本として地方財政対策を講じることとなりました。

本市の財政状況は、合併前の平成16年度決算における主要財政指標を見ると、3町合算による經常収支比率は93.7パーセントと非常に高く、地方交付税・国県支出金・市債などの依存財源が全体の61パーセントを占める極めて脆弱な財政構造となっていて、非常に厳しい事態に直面しています。

この厳しい財政事情を認識しながらも、可能な限り従来の行政水準を維持するよう予算の計上を図り、合併協定の建設計画に沿った総合的かつ計画的に実施することを旨として、予算編成を行いました。

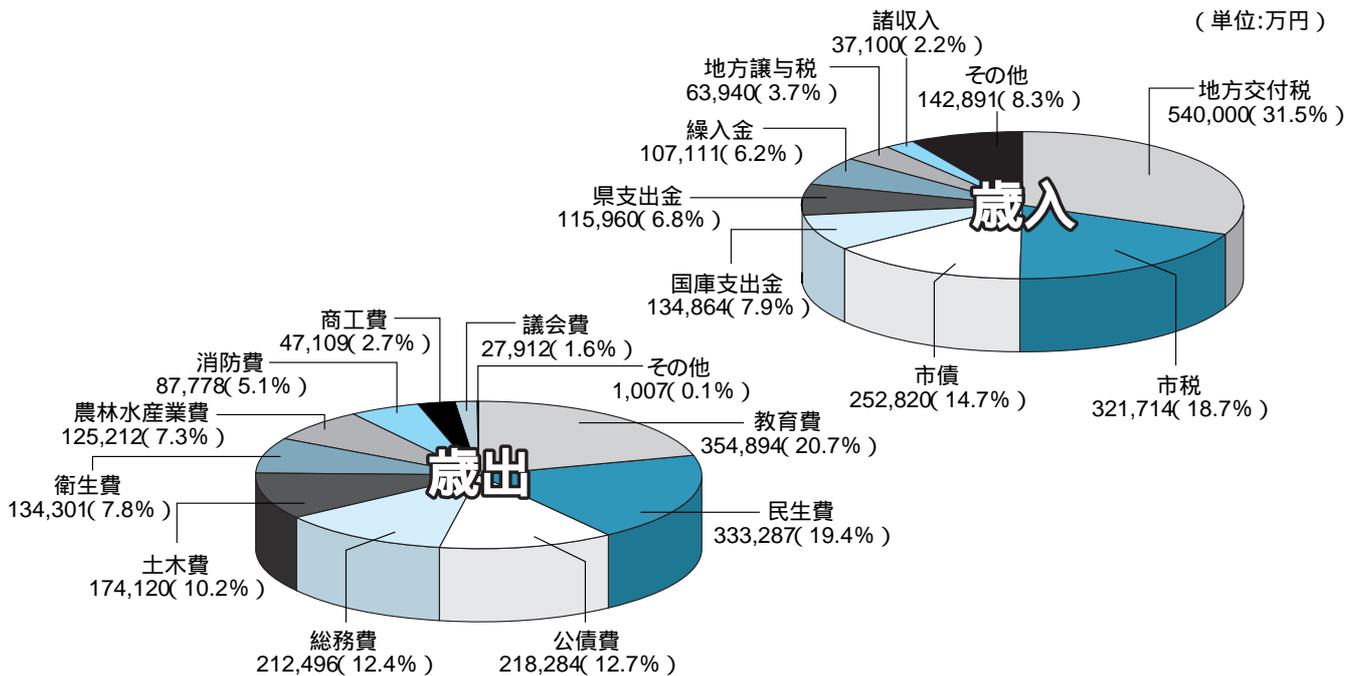
平成18年度予算と平成17年度予算の比較

区 分	18年度	17年度	増減額	増減率
一 般 会 計	171億6,400万円	105億1,880万円	66億4,520万円	63.2%
国民健康保険特別会計	45億9,530万円	29億3,330万円	16億6,200万円	56.7%
老人保健特別会計	37億6,040万円	22億3,810万円	15億2,230万円	68.0%
介護保険特別会計	23億8,880万円	13億1,740万円	10億7,140万円	81.3%
農業集落排水事業特別会計	4億2,160万円	2億1,070万円	2億1,090万円	100.1%
特定環境保全公共下水道事業特別会計	5億3,270万円	4億6,750万円	6,520万円	13.9%
流域関連公共下水道事業特別会計	5億5,150万円	4億9,250万円	5,900万円	12.0%
水道事業会計	12億6,515万円	9億6,091万円	3億424万円	31.7%
白帆荘運営事業会計	2億2,966万円	1億3,713万円	9,253万円	67.5%
合 計	309億911万円	192億7,634万円	116億3,277万円	60.3%

(17年度は、17年9月2日～18年3月31日の当初予算です。)

一般会計予算額 171億6,400万円

(単位:万円)



一般会計

市の中心となる会計で、行政を運営するための基本的な経費

歳入

自主財源の根幹をなす市税収入が伸び悩み、制度改正により地方交付税も減少傾向にありますが、市制に伴う生活保護費等、民生費関連経費と合併関連需要額経費により合併前の旧町当初予算額との対比で5・9パーセント増の54億円を計上しました。

また、地方譲与税においては、税源移譲による所得譲与税が3億円と倍増になり、合併前の旧町当初予算との対比で29・6パーセント増の6億3940万円を計上しました。

市債における従前の土木債や教育債の事業債については8億5550万円を計上し、重点事業による「物産館建設」「道路整備事業」「玉造中学校建設」「玉造統合幼稚園建設」を合併特例債により10億3260万円を計上し、市債総額では25億2820万円を計上しました。

歳出

現行の厳しい財政状況を踏まえ、経常経費は極力削減することとし、必要最低限の金額を計上しました。

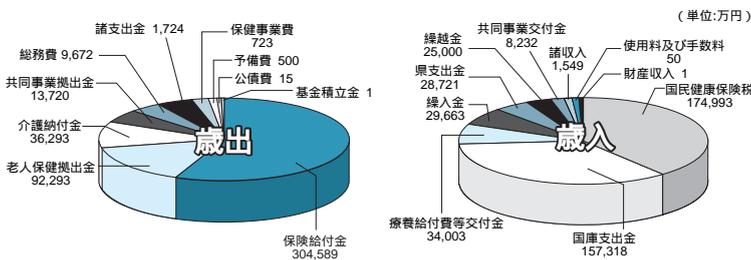
特徴として、教育費に、平成17・18年度の継続費で「北浦中学校講堂建設」と「玉造統合幼稚園建設」を計上し、本年度中に完成させます。また、平成18・19年度の継続費で「玉造中学校建設」を計上し、本年度着工を進めます。民生費については、益々増大する需要に加え、市制に伴う「生活保護費」や「障害者福祉ワークス運営事業」等により、合併前の旧町当初予算額との対比で18・2パーセントの増。また、商工費においても、霞ヶ浦大橋の無料化に伴い、行方市の西の玄関口として「物産館」の建設を合併特例債事業で実施しますので、合併前の旧町当初予算額との対比で82・6パーセントの増で予算を計上しました。

平成18年度に実施する主な事業

事業名称	予算額	主な内容
文書管理事務費	2,212万円	文書管理システム導入
企画事務費	1,785万円	行政改革大綱策定、鹿島アントラーズFCホームタウン出資
ITシステム管理事業	1億2,205万円	システムデータ統合、パソコン購入
戸籍電算化事業	1億1,550万円	戸籍データ電算化
障害者福祉ワークス運営事業	1,677万円	身体障害者・知的障害者の作業訓練等
白帆の湯運営事業	8,567万円	白帆荘へ運営委託
老人保健事業	1億2,614万円	健康診査、各種検診
塵芥処理事業	1億6,206万円	一般廃棄物処理、資源ごみ等のリサイクル
農業経営構造対策事業	2億1,527万円	JA北浦地区集出荷所整備の補助
水田農業対策事業	1億241万円	転作奨励補助
県単農道整備事業	1億3,324万円	谷地区外5路線
基盤整備促進事業	1億2,505万円	於下地区外5路線
物産館建設事業	1億6,834万円	物産館建設工事、備品購入
霞ヶ浦ふれあいランド管理事業	1億6,700万円	管理運営委託
道路改良舗装事業	7億53万円	36路線
消防施設管理整備事業	7,442万円	防火水槽設置、消防機庫建設、小型動力ポンプ積載車購入
北浦中学校施設整備事業	3億6,416万円	講堂改築工事（17年度より継続）
玉造中学校施設整備事業	6億2,639万円	校舎改築工事（19年度まで継続）
玉造統合幼稚園施設整備事業	4億7,845万円	園舎増築工事
体育施設管理事業	6,359万円	浜野球場整地、麻生運動広場ネット設置



予算額 45億9,530万円

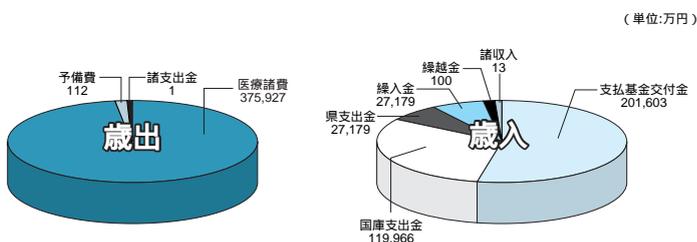


国民健康保険
健康保険法等の改正や、医療費の動向を踏まえながら、歳入歳出総額45億9530万円を計上しました。保険給付費は、歳出予算全体の66・2パーセント、特に療養諸費については保険給付費の中で88・4パーセントを占め、老人保健拠出金については、歳出予算全体の20パーセントを占めます。

特別会計

特定事業の歳入と歳出を一般会計と区別して、別に処理するための会計

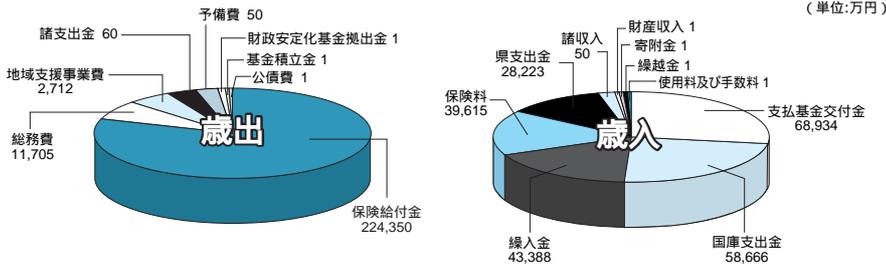
予算額 37億6,040万円



老人保健
本格的な高齢社会に向けて、市民の老後における健康の保持と適切な医療の確保を図ることを目的として、歳入歳出総額37億6040万円を見込みました。今後、医療費は増加傾向にあり、また、国では超高齢社会を展望した新たな高齢者医療制度体系の見直しなどが検討されます。

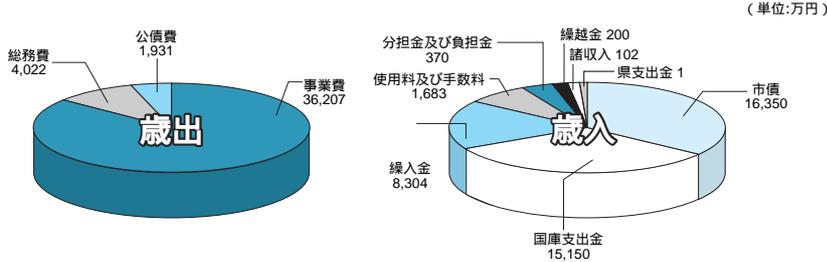
18年度予算

予算額 23億8,880万円



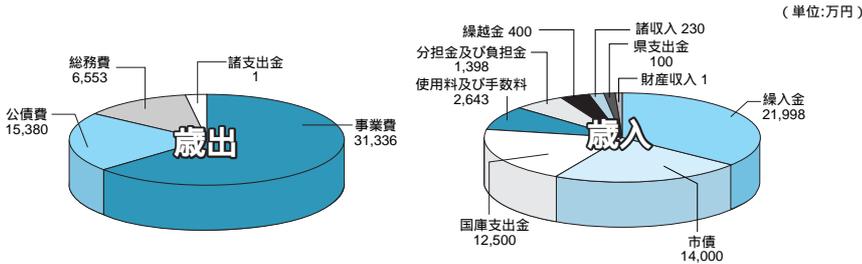
介護保険
高齢者数の伸びや、制度改革の周知と共に、要介護者数及び介護サービスの利用が増加してきています。
歳出においては、介護サービス・支援サービスに係る保険給付費22億4,350万円を見込み、歳入歳出総額23億8,880万円を計上しました。

予算額 4億2,160万円



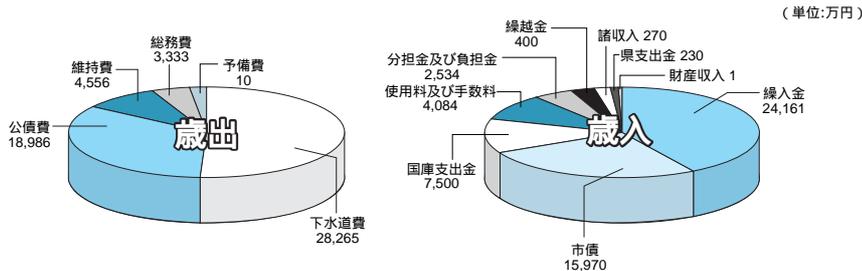
農業集落排水事業
農本地区農業集落排水施設の適正な維持管理を行い、健全な運営に努めます。さらに平成15年度より工事着手を致しました、玉造北部地区5集落の事業計画区域162ヘクタールの整備を行います。

予算額 5億3,270万円



特定環境保全公共下水道事業
事業認可181ヘクタールの整備を進めるとともに、玉造浄化センターの適正な維持管理を行い、健全な運営に努めます。
また、下水道台帳の整備等を行います。

予算額 5億5,150万円



流域関連公共下水道事業
事業認可169ヘクタールの整備を進めます。
また供用開始区域の水洗化の促進、受益者負担金の賦課、更に下水道の維持管理に向けて下水道台帳の整備を行います。

予算額 2億2,966万円

	本年度予定額
収益的収入	2億2,966万円
収益的支出	2億2,966万円
差 引	0

	本年度予定額
資本的収入	0
資本的支出	0

国民宿舎白帆荘運営事業
白帆荘宿泊予定者数を65,000人、白帆荘休憩利用者数75,000人、白帆の湯利用者数を9万6,500人と見込み、収益的収入・支出は2億2,966万円を見込みました。

予算額 12億6,515万円

	本年度予定額
収益的収入	8億7,620万円
収益的支出	8億7,620万円
差 引	0

	本年度予定額
資本的収入	7,006万円
資本的支出	3億8,895万円
差 引	3億1,889万円

水道事業
給水戸数1万3,000戸、年間総給水量383万4,000立方メートルを予定し、普及率90パーセントを見込んでいます。

山手線ジャック

走りだした『行方ブランド』

当市やJAなめがたなどで組織する行方地域圏芸振興協議会は、「行方ブランド」の野菜を広くPRしようと、「茨城・行方」のふりがな入りの地名や地図、特産野菜のイラストなどが入ったジャンパーを作製しました。

当市は農業算出額が全国13位にランクされ、せり、エシヤレ



山手線車内で行方の野菜をPRしました

ット、しゅんぎくが全国トップレベルの出荷量を誇っております。

全国的にも野菜の産地であるにもかかわらず、「なめがた」の読み方が難解で知名度が低いことや、行方の野菜が関東を中心に広く流通し、市場関係者などから高い信頼を受ける一方で、消費者レベルでは認識されていないのが現状。そこで、行方ブランドの普及を目指し、ジャンパーを利用した今回のキャンペーンを企画しました。

2月10日の「山手線ジャック」キャンペーンでは、ジャンパーを着た当市職員や関係団体の職員約30人がJR山手線に乗り込み、都内のデパートや池袋・サンシャインシティなどを移動。ジャンパー姿で人間公告塔となり、電車の乗客や通行人に「茨城の行方」を売り込みました。

中学生と話そう

2月8日、玉造中学校において、中学生と保護司会、更生保護女性会、民生委員児童委員協議会が対話する「中学生と話そう」フォーラムが行われました。

このフォーラムは、子どもを健やかに育むために、家庭、学校、地域社会が一体となつて取り組むことが求められている今、保護司は非行をした人々の更生に取り組むだけではなく、普段から学校と連携し、学校とともに子どもの問題を解決していくという趣旨から、中学生と対話集会を持つと計画されました。

各学級に講師として保護司、更生保護女性会、民生委員児童委員が2〜4名ずつ入り、生徒からの「部活が強くなるにはどうすればいいのか」「薬物について教えてほしい」などの質問をもとに、講師の方から経験談を含めて助言をいただき、40分



中学生の悩みを聞きました

ほど話し合いをしました。中学生からは、「貴重な経験だった。濃い時間を過ごした」「もっと、たくさん話を聞きたかった」「地域の大人の人が、私たちのことをこんなに考えてくれていることがわかった」「また、このようなフォーラムをやりたい」などの感想が聞かれました。